

基本的施策Ⅴ 試験研究及び技術の普及

地下水と土を育む農業を着実に推進するために、試験研究や学術機関との連携を図りながら、基盤となる技術を確立し、この技術を農業現場へ普及します。

有機農業、化学肥料・農薬を削減した農業、一層の効果的な施肥、堆肥の利用促進、水田の利用拡大、地下水のかん養などに効果が期待できる試験研究に取り組むとともに、施策の効果を見極めるため地下水と土壌のモニタリング調査の取組みを継続して行います。

また、県内大学等と連携し、農業が地下水と土へ及ぼす貢献度を明確にするような研究を進めるとともに、地下水と土を育む農業を進展させる技術を農業者が取り組みやすいよう普及を進めます。

開発された技術、得られた調査結果や情報については、農業生産現場への普及と併せて、県民全体へ広く周知することで、地下水と土を育む農業を支える基盤をより強固なものにします。

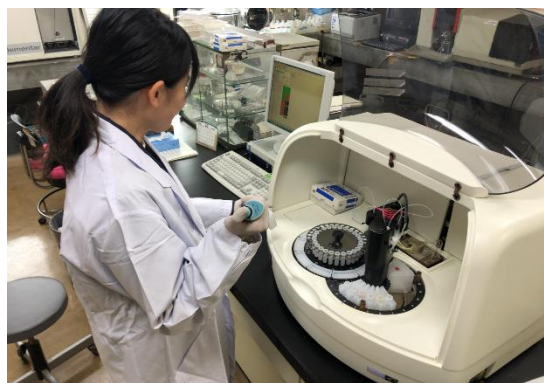
・プログラム（具体的取組）Ⅴ－1 地下水と土を育む農業を支える試験研究

目標指標：環境にやさしい農業を進める技術の開発

技術開発数 8.3 件/年（H27～H30 平均）→10 件/年

アクション1 環境にやさしい農業を進める技術の試験研究

肥料が施用された土壌の実態調査と改善対策、農耕地からの窒素負荷軽減のための合理的施肥技術、スマート農業や生物資材を活用した農薬削減技術の体系化、温暖化等の外部環境変化に応じた施肥法、有機質資材の活用、新規病害虫への対応等の研究を行います。



アクション2 家畜排せつ物の適正処理と利用拡大を支える技術の試験研究

肥料の使用が多い品目における堆肥等の適正施用や、環境に配慮した家畜排せつ物（スラリー等）の適正処理と効果的施肥等の研究を行います。

アクション3 水田の利用拡大、地下水かん養を支える技術の試験研究

水田を有効活用するため、飼料用米等の効率的な生産や家畜へ利用しやすいシステムの構築を目指す研究を行います。

アクション4 地下水と土壌のモニタリング及び水田かん養力調査

県内全域の地下水動態、井戸等の湧水量、土壌状態の継続的なモニタリングや水田かん養力調査を行い、試験研究課題へ反映します。

アクション5 県内大学等と連携した調査研究の実施

県内大学等と連携して農業と地下水に関する調査研究を行い、農業活動が地下水へ貢献するメカニズムや土壌へ施肥された窒素の浸透速度や量を調査します。

アクション6 調査研究成果の発信

調査研究により得られた結果については、シンポジウムやホームページ等により発信し、広く周知します。

・プログラム（具体的取組）V-2 地下水と土を育む農業を支える技術の普及

目標指標：技術展示ほ数 10.8 件/年（H27～H30 平均）→11 件/年

アクション1 技術展示実証ほの設置

農業研究センターや国の研究機関等で開発された化学肥料・農薬削減等の環境にやさしい技術を、農業生産現場へ効果的に普及させるため、展示ほの設置など現地実証を行います。



アクション2 化学肥料低減技術、IPM技術等の紹介

農業研究センター、国の研究機関、民間企業等が持つIPM技術、肥料の利用向上技術、機械や資材等を農業者に紹介する展示会を開催し、普及を図ります。